

🕒 2021/2/2 05:30 神戸新聞NEXT

生田町の謎（下） 神社が伝える「古生田川」



旧葺合区にある「生田町」の案内図。東側を付け替え後の生田川が流れる = 神戸市中央区生田町2

🔍 拡大



現在の生田川。新生田川は通称だ（新神戸駅から撮影）

🔍 拡大

神戸市中央区を形作った旧生田区と旧葺合区。旧葺合区に生田町があるのはなぜか—というギモンに前回、姫路独協大副学長の道谷卓（たかし）さん（56）は、生田川の流路が東から西へ移ったためではないかと指摘した。

この見解を後押しする人に旧葺合区にある二宮神社（二宮町3）で出会った。禰宜（ねぎ）の山西康司さん（51）。「生田神社と二宮神社の関係性からも、生田川が移動したことがうかがえる」と話す。

二宮神社は、生田神社の氏子地域が祭る「斎神（えいしん）八社」の一つ。現在の中央区と兵庫区に点在する、一宮から八宮までの八社は「生田さんを囲んで守る結界のような存在」なのだという。厄払いや招福を祈願し、節分などに「八社巡り」をする習わしもある。

ただ、明治以前の行政区画でいうと、二宮神社だけが菟原（うばら）郡に含まれ、他の七社と生田神社は八部（やたべ）郡に位置する。そして両郡の境界は、生田川とされている。

「生田神社から見て、二宮だけが川の向こうにあったというのは少し不可解。年代は定かではないですが、生田さんが現在の地に鎮座し、八社の名前が冠されたときには、全てが同じ郡域にあったと考えるのが自然ではないでしょうか」

生田神社が現在の下山手通の地に移ったのは、千年以上前とされている。

古代の律令（りつりょう）体制で郡域が定められた後の少なくとも一時期、生田川は二宮神社より東にあり、後に現在のフラワーロードへ流路が移ったため境界も移動した—というわけだ。山西さんによると、フラワーロードを流れていた旧生田川よりも古いため、「古（こ）生田川」と呼ぶこともあるという。

ただ、郷土史研究を繰ると、葺合地区に「生田」の地名がある理由については諸説あり、昔から議論的だったことが分かる。

生田神社創建の地が布引の砂（いさご）山（別名・丸山）で、その近くに生田の地名が残された—というのが、その一例。確たる答えを得るのは難しいが、地名が物語る歴史への興味は尽きない。

続いて、区名にもなった「葺合」の由来について、尋ねることにした。（安福直剛）

神戸
喫煙者歓喜「タバコ代が半額に」9割が絶賛する新型電子タバコが神戸すぎた PR(株式会社HAL)